

地域に奉仕と貢献を

のちがた
あつのり
「こぶし薬局」井上 敦礼さん
有限会社直方メディアカルサービス

平成21年4月に開局したこぶし薬局とあじさい薬局は、身近な薬局として町民の暮らしに不可欠となっている。町民とのかわりを聞きながら、薬局をとりまく今後の動きを伺った。

この町の印象は

10年前に赴任してきましたが、九州の筑豊の出身なので、同じような山里だなあという印象でした。

この町は糖尿病が多いということ、住民の方に聞いてみると、10時と3時にお茶を飲む習慣があり、糖分の取りすぎが原因であることがわかりました。かかりつけ薬局として、生活



薬剤師の井上さん

習慣病などの予防のため、相談のできる体制を整えていきたいと思えます。

これから挑んで行きたいことは

これからの薬局は、医薬分業の推進、高齢化、在宅医療等の増加に伴い、二分化するといわれています。

一つは、患者様が入退院する際の医療機関との情報共有や、病気などに関する相談に常に対応できる薬局であり、もう一つは、専門医療機関連携薬局として高度な薬学管理機能を持つ薬局です。

この両方を目指すとともに、法を整えばテレビ電話などを活用した遠隔服薬指導にも挑戦していきたいと思っています。このために、地域に根差すことが可能な薬剤師を求めています。今後、地元の人が薬剤師と



左がこぶし薬局、奥は飯南病院

して活躍できるようにするため、インターンシップの受け入れ資格をとり、高校生が体験できる環境を作ることも検討したいと思えます。
私たちが、さらにこの地域へ貢献できるよう、ご親戚などに薬剤師がおられれば、ご紹介いただければ幸いです。
地域の皆さんに支えられ、11年目を迎えることができました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。
これからも、皆さんの健康を守るために、この仕事を続けていきたいと考えています。

今月の表紙写真



「この薬はこうしてくださいね」と、こぶし薬局の薬剤師さんが一つひとつの薬の説明をするたびに、おばあちゃんは楽しそうに聞き入っていました。調剤薬局として、飯南病院にはこぶし薬局が、来島診療所にはあじさい薬局が、医師の指導のもとに住民の健康サポートをされています。笑うことや、笑顔で過ごすことは万病に効果があるともいわれています。お薬に添えられた笑顔を求めて来局される方も多いでしょう。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

年末年始の慌ただしい中での編集作業ですが、読者にとって解りやすい紙面づくりに努めています。

議会広報はゴミ箱直行という話(噂)がある反面、誤字脱字の指摘や内容について、質問・意見を聞く機会もあり、案外読まれているのかなと感じることもあります。

手に取ってもらえる広報をめざし、読者目線で作ることにさらに努力をしなければならぬと決意を新たにしています。

本年が皆様にとって、より良い年になりますように。

議会広報編集委員 熊谷 兼樹